

# [Notes Option]

第9版



# 改版履歴

版	改版日付	改版内容
第2版	2014/03/13	動作環境に「Domino R9.0.1」を追記
第3版	2015/07/15	「1-1-2. 動作環境」に「Windows Server 2012」を追記
		「1-2. 導入手順」の(8)に「すべてのサーバ文書に対
		して、「ジャーナルの受信者」を有効にする必要があ
		ります。」を追記
		「2-2. スケジュール設定」の設定方法に Windows
		2003 用と Windows 2008・2012 用を追記
第4版	2016/02/15	Notes To MailBase V9.0 へのバージョンアップに伴う
		修正
第5版	2016/12/13	「1-5-4. その他の制限事項」に「対応していないメ
		ールタイプについて」を追記
		「1-3-3. (2) 環境設定文書入力」に「Domino ジャー
		ナルヘッダーの削除をしない場合」の内容を更新
第6版	2017/07/31	「1-5-4.その他の制限事項」に「添付ファイルの変換
		について」を追記
		Windows Sever 2003 をサポート対象から削除
第7版	2018/11/22	「2-1.転送エージェントの設定」
		・mbtransc.exe のオプションにタイムアウト値を追
		加。
		・mbtransd の再起動方法を修正。
		「2-2.スケジュール設定」の mbtransc.exe のオプショ
		ンにタイムアウト値を追加。
第8版	2018/12//27	「1-5-4.その他の制限事項に「Notes スクリプトの
		Send メソッドで自動送信されたメールの変換につ
		いて」を追加。
		2-1.転送エージェントの設定」
		・mbtransc.exe のオブションに暗号化通信の設定を追
		「2-2.スケジュール設定」の mbtransc.exe のオブショ
	2010/00/24	
第9版	2019/09/24	「2-1.転送エーシェントの設定」と「2-2-1.転送
		Windows2008 2012 の設定」(3) タスクの繰り返し設
		正に転送受信サービスの実行コマンドのパフメータ
		を垣記

目	次

1.	Notes 対応エージェント	1
	1-1. システム概要	1
	1-1-1.目的	1
	1-1-2. 動作環境	1
	1-1-3. システム構成	1
	<b>1-1-4</b> . メールファイル変換処理	2
	1-2. 導入手順	3
	1-3. ユーザーインターフェース	11
	1-3-1. NotesToMailBase	11
	1-3-2. MailBaseLog.nsf	20
	1-3-3. MailBaseLogA.nsf	24
	1-4. エラー発生時のログについて	27
	1-4-1. ログ DB (log.nsf)への書出し	27
	1-4-2. ログファイルへの書出し	27
	1-5. 制限事項	29
	1-5-1. ジャーナル DB の設定について	
	<b>1-5-2.</b> ジャーナル DB の「リッチテキスト優先」指定による	制限事項
		20
	1-5-3. 変換ツールにおける制限事項	
	1-5-4. その他の制限事項	
	1-6. アッフクレード手順について	
2.	メール転送設定	39
	2-1. 転送エージェントの設定	
	2-2. スケジュール設定	41
	<b>2-2-1</b> . Windows 2008・2012 における設定方法	41
3.	認証設定	46
	3-1. POP3 認証	46
	3-2. LDAP 認証	46
	<b>3-2-1</b> . Domino の設定	46
	<b>3-2-2</b> . LDAP 認証	46

本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

本文中では、TM や®などの記号は使用しておりません

# 1. Notes 対応エージェント

1-1. システム概要

#### 1-1-1. 目的

Notes のメール文書を、Notes のジャーナリング機能を利用し MailBase にアーカイブするためのメールファイルを作成し、指定されたフォル ダに出力することを目的としたツールです。

1-1-2. 動作環境

Domino 8.5 (詳細に関しては弊社にお問い合わせください) 9.0.1 OS Windows Server 2008 Windows Server 2012

1-1-3. システム構成

	ファイル名称	説明
1	NotesToMailBase.nsf	変換処理を実行する NotesDB
2	StyleSheet.xsl	データ変換で使用する XSL スタイルシートファ
		イル(ISO-2022-JPエンコード用)
3	StyleSheetUTF8.xsl	データ変換で使用する XSL スタイルシートファ
		イル(UTF-8 エンコード用)
4	MailBaseLog.nsf	NotesToMailBase の変換ログ及び統計情報を格納
		する NotesDB
5	MailBaseLogA.nsf	NotesToMailBase の変換ログのバックアップ用の
		NotesDB
6	mbtransc.exe	変換後メールを MailBase サーバへ転送するモ
		ジュール

### 1-1-4. メールファイル変換処理



- ① 指定されたジャーナル DB からメール文書を取得します。
- ② メール文書のデータを取得し、メールファイル (eml) を生成します。
   ※メールファイル生成に失敗した場合、⑦の処理を行います。
   ※強制終了原因メールと判断された場合、⑧の処理を行います。
- ③ 指定されたシステムテンポラリにメールファイルを保存します。
- ④ システムテンポラリへのメールファイル保存が完了したら、指定 された保存フォルダにメールファイルをコピーします。
- ⑤ コピーが完了したら、システムテンポラリのメールファイルを削除します。
- ⑥ ジャーナル DB のメール文書を削除します。以降、ジャーナル
   DB より次のメール文書を取得し、①から処理を繰り返します。
- ⑦ 変換に失敗したメールはジャーナル DB 内のエラーフォルダに 移動します。

(受信ボックスのメール文書は削除されます)

⑧ 強制終了の原因となったメールはジャーナル DB 内の退避フォ ルダに移動します。

(受信ボックスのメール文書は削除されます)

- ⑨ 暗号化メールの場合、環境設定文書の設定により、ジャーナル DB内の「暗号化メールフォルダ」に移動します。
- ⑩ 変換結果を専用のログ DB/ログファイルに出力します。以降、 ジャーナル DB より次のメール文書を取得し、①から処理を繰り 返します。

#### 1-2. 導入手順

- <u>NotesToMailBase.nsf をサーバーに設置</u>
   Domino Administrator を使用し、テンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf)を基にして NotesToMailBase.nsf を作成し、起動 する Domino サーバーの Data ディレクトリに作成する NotesToMailBase.nsf ファイルを保存します。
  - テンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf)を Data ディレクト リにコピーします。
  - 2. Domino Administrator を起動し、サーバーの管理者 ID でログイ ンします。

- 3. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「サーバーを 開く」から導入する Domino サーバーを開きます。
- ファイルタグを選び、表示内容を「データベースのみ」に変更します。

ユーザーとグループ | ファイル | サーバー... | メッセージング... | 複製 | 設定 | データベースのみ です サーバー: **1235/1235** Release 7.0.4/Windows NT 5.2

5. コピーしたテンプレートファイル(NotesToMailBase.ntf) を選 び、「ファイル操作」→「署名」を選択し、テンプレートに対し て署名します。

このとき、選択欄では、IDは「現在のユーザーID」を、署名する設計要素は「すべての設計文書」を指定します。

データベースの	0署名	<u>?</u> 🗙
-	現在の ID ファイルでデータベースに署名 します。	0K キャンセル
選択:	NotesToMailBase.ntf, 729 KB	
どちらのコ	ID を使用しますか?	
<ul> <li>・ 現在の</li> </ul>	<u>ユーザー ID(U)</u>	
<ul> <li>現在の</li> </ul>	サーバー ID(S)	
		_
署名する	設計要素はどれですか?	
⊙ すべて	の設計文書( <u>A</u> )	
় বৃংগ	のテータ文書心	
<ul> <li>⑤ 指定した</li> </ul>	たすべての文書(II) フォーム	
<ul> <li>特定の</li> </ul>	Note IDØ	
▼ 既存の	署名のみ更新する(高速)(匠)	
データベ・	ースは現在使用している ID で署名されます。	

- 6. Domino Administrator  $\prec = = -\overline{c} [\overline{z_r} \overline{r}] \rightarrow [\overline{r} \overline{r}]$ → 「作成」を選択します。
- ファイル名を NotesToMailBase.nsf とし、テンプレートに上記で 設定した NotesToMailBase.ntf を選び、データベースを作成しま す。

注:以下に記述する変換ログファイル(MailBaseLog.nsf)およ び変換ログバックアップファイル(MailBaseLogA.nsf)と同じ フォルダにコピーする必要があります。

データベースの作成		? X
新規データペース:	名と場所の指定	
サーバー( <u>S</u> )	1235/1235	▼ OK
データベース名(①	NotesToMailBase	キャンセル
ファイル名(E)	NotesToMailBase.nsf	
	暗号化(E) 「全文索引の作成(C)	言羊細( <u>A</u> )
新規データベース(	のテンプレートの指定	
サーバー(5)	1235/1235	•
テンプレート①		
	💊 NotesToMailBase	
	BJX メールテンプレート (6)	<b>T</b>
	New Te MailDane and	
ファイル名団		テンプレートについて
	□ 詳細テノフレートの表示(M) □ テンブレートを引き継いで設計(0)	

- ※ NotesToMailBase および ジャーナル DB のアクセス制御の設定 は、「ユーザー」「サーバ」ともに「管理者」を設定してください。
- Domino Administrator メニューで「設定」→「サーバー」→「現在のサーバー文書」→「セキュリティ」を選択し、サーバーの編集で実行権限を設定します。
   「制限なしで実行」を設定し、署名ユーザーと同一の実行ユーザーID を設定してください。

また、当ユーザーで、ジャーナル DB ヘアクセス権(参照・更新)が必要です。

CYBERSOLUTIONS ドメイン 💁 Welcome 🗙 🕼 サーバー: I153/dev/cybersoluti 🗙	
②サーバーの編集 ③Web の作成_ ※キャンセル	
サーバー : 1153/dev/cybersolutions/JP	Contraction of the second seco
基本   セキュリティ   ポート   サーバータスク   インターネット   MTA   その他   トランザクショ:	ンログ   共有メール   管理
管理者	Programmability の制限 可能ユーザー
フ <u>ルアクセスアドミニスト</u> レーター:	制限なしで実行: *
管理者: ruri yamashita/cybersolutions/JP	他のユーザーとして美行するエージェン トを署名:
データベースアドミニスト レーター:	エージェントを呼び出すユーザーとして 実行するエージェントを署名:
フルリモートコンソールアド ミニストレーター:	制限付き LotusScript/Java エージェン * トの実行:
参照限定アドミニストレー ター:	ジンブルアクションと式エージェントの実 * 行:
システムアドミニストレー ター:	他のユーザーとして実行するスクリプト ライブラリを署名:
限定システムアドミニスト レーター:	注意: 以下の設定は Notes 6 では無効です。 前バージョン使用時の互換性のために使用します。
制限されたシステムコマン F:	制限付き Java/Javascript/COM の実 行:
ブラウザアドミニストレー 多ー(Pre-Notes 6 サー バーのみ)	制限はし Java/Javascript/COM の実 行:

(2) <u>変換ログファイルおよび変換ログバックアップファイルのサーバ</u> への設置

Domino Administrator を使用し、NotesToMailBaseの変換ログ

ファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアップファイル (MailBaseLogA.ntf) を NotesToMailBase エージェントが起動する Domino サーバの Data ディレクトリに保存します。

1. 変換ログファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアッ プファイル (MailBaseLogA.ntf)を Data フォルダにコピーします。

注:NotesToMailBase.nsf と同じフォルダに存在する必要があります。

- 2. Domino Administrator を起動し、サーバーの管理者 ID でログイ ンします。
- 3. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「サーバーを 開く」から導入する Domino サーバーを開きます。
- ファイルタグを選び、表示内容を「データベースのみ」に変更します。

ユーザーとグループ ファイル サーバー… メッセージング… 複製 設定			
デーバー: <b>1195/1195</b> Release 7.0.4 HF68/Windows NT 6.0	表示 <mark>内容</mark> :	データベースのみ	•

5. コピーした変換ログファイル (MailBaseLog.ntf) および変換ログ バックアップファイル

(MailBaseLogA.ntf)を選び、「ファイル操作」→「署名」を選択 し、NotesDB ファイルに対して署名します。

このとき、選択欄では、IDは「現在のユーザーID」を、署名する設計要素は「すべての設計文書」を指定します。

データベース	の署名		? ×
<b></b>	現在の ID ファイルでデー ます。	タベースに署名し	OK キャンセル
選択:	2 データベース, 2 MB		
どちらの	ID を使用しますか?		
<ul> <li>・ 現在の</li> <li>・ 現在の</li> </ul>	ユーザー ID(U) サーバー ID(S)		
署名する	設計要素はどれですか?		
়ে কুর্বে ত কুর্বে	の設計文書( <u>A</u> ) <del>のデータ文書(<u>D</u>)</del>		
<ul> <li>○ 指定し:</li> <li>○ 特定の</li> </ul>	たすべての文書(I) フォー Note ID(I)	·4 _	3
☑ 既存の	署名のみ更新する(高速)( <u>E</u> )	)	
データベ	ースは現在使用している ID	で署名されます。	

- 6. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「データベース」 →「作成」を選択します。
- ファイル名を MailBaseLog.nsf とし、テンプレートに上記で設定 した MailBaseLog.ntf を選び、データベースを作成します。
   注:前に作成した NotesToMailBase.nsf および、以下に記述する変換ログバックアップファイル(MailBaseLogA.nsf)と同じフォル ダにコピーする必要があります。
- 8. Domino Administrator メニューで「ファイル」→「データベース」 →「作成」を選択します。
- ファイル名を MailBaseLogA.nsf とし、テンプレートに上記で設定した MailBaseLogA.ntf を選び、データベースを作成します。
   注:前に作成した NotesToMailBase.nsf および、変換ログファイル (MailBaseLog.nsf) と同じフォルダにコピーする必要があります。
- (3) <u>スタイルシートを任意のディレクトリに保存</u> スタイルシートを任意のフォルダに保存します。
   ※StyleSheet.xsl、StyleSheetUTF8.xsl は同じディレクトリに格納する 必要があります。
- (4) NotesToMailBase の環境設定文書を作成
  - 1. NotesToMailBase を開き、メインメニューの[環境設定]ボタンを クリックします。

🥑 No	otesToMailBase V900 🛛 🕅೮ನ
環境設定	環境設定文書を新規作成します。 既存の環境設定文書がある場合は該当文書を開きます。
ステータス	ステークス文書の内容を確認します。 ステータス文書が存在しない場合はエラーメッセージを表示します。 ゆ
手動実行	手動でメールジャーナルのデータをMailBaseフォーマットのファイルに変換します。
	Copyright(C) 2015. CyberSolutions Inc.

- 2. 環境設定文書が開きます。
- 3. [編集する]ボタンをクリックします。
- 入力項目を記入します。
   ※詳細は「1-3.ユーザーインターフェース」参照

- 5. [保存する]ボタンをクリックします。
- 6. 環境設定文書が閉じ、設定が有効になります。
- (5) 変換ログファイルの環境設定文書を作成

変換ログファイルの環境設定文書を作成します。

1. MailBaseLog.nsf を開き、左メニューの[環境設定]のリンクをク リックします。



- 環境設定ビューが表示されるので、[環境設定文書の編集]ボタンをクリックします。
- 3. 環境設定文書が編集モードで表示されます。
- 4. 入力項目を記入します。 ※詳細は「1-3.ユーザーインターフ ェース」参照
- 5. [保存する]ボタンをクリックします。
- 6. 環境設定文書が閉じ、設定が有効になります。
- (6) <u>変換ログバックアップファイルの環境設定文書を作成</u> 変換ログバックアップファイルの環境設定文書を作成します。
  - 1. MailBaseLogA.nsf を開き、左メニューの[環境設定]のリンクを クリックします。



- 2. 環境設定ビューが表示されるので、[環境設定文書の編集]ボタ ンをクリックします。
- 3. 環境設定文書が編集モードで表示されます。
- 4. 入力項目を記入します。 ※詳細は「1-3.ユーザーインターフ ェース」参照
- 5. [保存する]ボタンをクリックします。
- 6. 環境設定文書が閉じ、設定が有効になります。
- (7) <u>各エージェントのスケジュールを設定</u>

NotesToMailBase の各エージェントのスケジュールを設定します。 スケジュール推奨設定値は御社・Domino サーバー環境により、適宜 変更願います。

項番	NotesDB 名	エージェント名/機 能	スケジュール推奨設 定値
1	NotesToMailBase.nsf	convert メール変換処理	5 分毎
2	MailBaseLog.nsf	CreateSTInfoAnnoul 統計情報年次処理	毎月1日4時
3		CreateSTInfoDaily 統計情報日時処理	1時間毎
4		CreateSTInfoMonthly 統計情報月次処理	毎日1時
5		CreateSTInfoWeekly 統計情報週次処理	毎週日曜日2時
6	MailBaseLogA.nsf	DeleteLogBackup 変換ログバックアッ プ処理	毎日1時

- 1. Lotus Domino Designer を開きます。
- 2. 各 NotesDB のエージェント一覧より、上記エージェントを選択 します。
- 3. エージェントのプロパティを開きます。



4. エージェントのスケジュールの設定を行います。

エージェントのスケジュール	?
一日一回以上エージェントを実行	
エージェントの実行間隔 🛛 📑 時間(出) 5 📑 分毎(U)	
○有妙時間帯(13) 10000 (15) ~ 10000 (15) ○終日(14)	
エージェントの実行日制限	
□ エージェントの実行開始日(D) 2008/10/30 16	
□ エージェントの実行終了日(T) 2008/10/30 16	
□ 週末はエージェントを実行しない、(W)	
エージェントの実行場所	
実行場所化 - すべてのサーバー -	
エージェノトが有効になったときにサーバーを指定(2)	
OKキャンt	zil

5. 設定後、[有効]ボタンをクリックすると、スケジュールが有効 になります。

🙀 NotesToMailbase 🗏 🔤 🖼 🗙	★ ホーム × S	lotesToMailbase\/	lotesToMailbas	e.nsf ×								
6 • H •	😚 新規エージェント(の)	《有効化图》	無効化① 2	<b>署</b> 名(2)								
Software V900     With the state V900     With th	名前	<u>8</u> ]4	粗利	最終更新日	最終更新者	6-		ða	۹.	٠	0	コメント
III 7x-4	convert		LotusScript	2016/02/16 23:59:04	Domino Administrator/EFLAB		٩	9		9	9	
1 th-	手動変換	ManualConvert	LotusScript	2016/02/16 23:43:42	Domino Administrator/EFLAB		10	4		4	4	
🚞 7x1/3												
田 フレームセット												
パージ												
并有要素												
🖾 3-K												
S I-VIVN												
Convert												
合 手動変換												
🔗 共有アクション												
スクリプトライブラリ												
国 データベーススクリプト												
😭 Web サービスプロバイダ												
🚯 Web サービスコンシューマ												
🕒 データ												
🤷 リソース												
🛗 複合アプリケーション												
🛃 アプリケーション構成												

(8) <u>Domino サーバー設定(ジャーナルの受信者)を設定</u> NotesToMailBase のグループアドレスを展開する機能を利用する場合は Domino サーバーのジャーナル受信者展開機能を利用するため、下記の設定が必要となります。
※Lotus Domino 8.x 以降では、サーバー設定文書に新たに追加されたフィールドを利用します。サーバー設定文書の[ルーター/SMTP]-[詳細] - [ジャーナル] タブの [ジャーナルの受信者] フィールドにて、上記機能の有効/無効を切り替えます。

※すべてのサーバー文書に対して、[ジャーナルの受信者]を有効にする 必要があります。

- 1-3. ユーザーインターフェース
- 1-3-1. NotesToMailBase
- (1) メイン画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	メイン画面を閉じます。	
2	環境設定	環境設定文書を新規作成します。既存の環境設定	
		文書がある場合は、該当文書を開きます。	
3	ステータス	ステータス文書の内容を確認します。	
4	手動実行	手動実行でジャーナルメールを MailBase フォー	手動実行を実
		マットのファイルに変換します。	施する場合は、
			処理自体はサ
			ーバーにて実
			行されますが、

ボタン名	処理内容	備考
		処理を実行し
		たクライアン
		トに対して負
		荷がかかるた
		め、大量文書の
		処理には向き
		ません。
		※大量文書の
		変換処理は、定
		期エージェン
		トにて実行し
		てください。

### (2) 環境設定文書入力画面

環境設定画面(タブ:ジャーナル DB 関連)

Notes IoMallBase 一填現設定一						
ャーナルDB関連 エラーチェッ	ク関連   メール変換関連   eml出力関連   ログ関連					
198月						
ジャーナルDBサーバー名	EFC008/EFTEST					
ジャーナルDBファイルバス名 NTMB¥mailjm01.nsf						

	入力項目	処理内容	備考
1	ジャーナル DB	ジャーナル DB が存在する Domino サーバー名	入力必須
	サーバー名		
2	ジャーナル DB	ジャーナル DB のファイルパス名	入力必須
	ファイルパス名		

# 環境設定画面 (タブ:エラーチェック関連)

3 保存する 🔀 キャンセル						
NotesToMailBase 一環境設定一						
*「*」のついた項目は、入力必須項目です。						
ジャーナルDB関連 エラーチェック関連 メール変換関連 eml出力関連 ログ関連						
<b></b>						
変換行数(最大値)	『5000』行					
添付ファイルサイズ(最大値)	ீ10 <sub>.0</sub> MB T					
*エラーフォルダ名	<sup>r</sup> error <sub>a</sub>					
*連続強制終了回数しきい値	°3. •					
*連続強制終了検知ログ出力	ಿ ತನ್ನ					
エラーメール通知先	『Domino Administrator/EFTEST 』 ▼					
*退避フォルダ名	ි DownF ු					
	·					

	入力項目	処理内容	備考
1	変換行数(最大値)	1 メール本文の最大行数を指定し	本システムは、
		ます。超えた場合は変換エラーと	行数が多いメー
		なります。	ルに対して変換
		"0"、または指定しない場合、行数	処理を行った場
		チェックは行いません。	合変換に時間が
			かかる場合があ
			ります。ここで
			は変換処理の実
			行対象とするメ
			ールに含まれる
			行数の上限値を
			設定してくださ
			い。
			設定されていな
			い場合は行数チ
			ェックを行いま
			せん。
2	添付ファイルサ	1 メール内の最大ファイルサイズ	
	イズ(最大値)	(複数ファイルは合計)を指定し	
		ます。超えた場合は変換エラーと	
		なります。	
		"0"、または指定しない場合、チェ	
		ックは行いません。	
3	エラーフォルダ	上記チェックエラー発生時やアー	入力必須
	名	カイブ時にエラーとなったメール	
		文書を格納するフォルダ名を入力	
		します。	
		フォルタは、シャーナル DB に作	
4		成されます。	コエック
4	連続預制終「回	"3"-"10"の値を選択します。連続強	人刀必須
	<i>致しさい</i> 個	制終」が選択した個になると、検	
5		知対家となりよう。 サートスサー 「ヨンキン」はまれこより	ユエック
2	連続強制終「検	"する":上記しさい値を超えた場	人刀必須
	和ロク田力	合、エフーロクを田刀しより。	
		しない:エリーログを田力しま	
6	トラーン・ルネ	ひん。   演奏時期数字操作時が出力の構成	
0	エワーメール通知生	理航畑市総1 使却ロク田月の 個別	
	THIT	りつ い时有効になりより。 連知 生の病生を入力します	
7	山政フェルガタ	元の死元を八月しまり。	入力以須
/	呕避ノオルダ名	理航短前於「機能より傾知され、	八刀必須

入力項目	処理内容	備考
	連続強制終了を誘因するメール文	
	書を格納するフォルダ名を入力し	
	ます。	
	格納されたメールは変換から除外	
	されます。	

※グループアドレスの展開時に Domino Directory を参照します。 Domino Directory から正しくアドレスが引けない場合は Notes ア

カウントのまま、出力されるケースがあります。

また、グループアドレスの中にグループアドレスが定義されている 場合、そのグループアドレス自体の検索は行えません。

※Domino ジャーナルヘッダーの削除をしない場合(メールヘッダに以下の Recipients フィールドが残っている場合) MailBase 結果画面からの転送が正しく行えないケースがあります。

X-Notes-Item: RemoteJournal (ジャーナル先のDB); name=Recipients

環境設定画面 (タブ:メール変換関連)

🛓 保存する 🛛 🞇 キャンセル						
NotesToMailBase 一環境設定一						
*「*」のついた項目は、入力必須項目です。						
ジャーナルDB関連 エラーチェック関連 メール変換関連 eml出力関連 ログ関連						
<b>[  兌</b>   月						
*暗号化メールの処理	『アーカイブする』▼					
*暗号化メールの保存	『暗号化メールフォルダに移動する』▼					
*暗号化メールフォルダ名	<sup>™</sup> SecF 』					
*グループアドレスの展開	『展開する』▼					
*重複アドレスの削除	『重複アドレスは削除する』▼					
*ディレクトリアシスタントによる検索	『利用しない』▼					
*Domino ジャーナルヘッダの削除	『削除しない』▼					

	入力項目	処理内容	備考
1	暗号化メールの処理	"アーカイブする":暗号化さ	入力必須
		れているメールをアーカイ	

	入力項目	処理内容	備考
		ブします。ただし、暗号化さ	
		れているフィールドはアー	
		カイブされません。	
		"アーカイブしない":暗号化	
		されているメールはアーカ	
		イブしません。	
2	暗号化メールの保存	"暗号化メールフォルダに	入力必須
		移動する":暗号化されてい	
		るメールは暗号化メールフ	
		オルダに移動します。	
		"削除する":暗号化メールは	
		ジャーナル <b>DB</b> から削除しま	
		す。暗号化メールの処理の値	
		が"アーカイブする "の時有	
		効になります。	
3	暗号化メールフォルダ名	暗号化メールの保存の値が"	入力必須
		暗号化メールフォルダに移	
		動する "の時有効になりま	
		す。	
		暗号化メールを格納するフ	
		ォルダ名を入力します。	
		フォルダはジャーナル DB に	
		作成されます。	
4	グループアドレスの展開	"展開する": Domino Directory	入力必須
		のジャーナリングの設定で	
		ジャーナルの受信者の値が"	
		有効"の時グループアドレス	
		を展開して、個々の受信者の	
		アドレスを eml に出力しま	
		す。	
		"展開しない":グループアド	
		レスを展開しません。	
5	重複アドレスの削除	グループアドレスの展開の	入力必須
		値が"展開する"の時有効にな	
		ります。	
		"重復アドレスは削除する":	
		展開したグループアドレス	
		の中に同じアドレスがある	
		場合、重複分は削除して出力	
		します。	

	入力項目	処理内容	備考
		"重複アドレスは削除しない	
		":展開したグループアドレ	
		スの中に同じアドレスがあ	
		ってもそのまま出力します。	
6	ディレクトリアシスタントに	グループアドレスの展開の	入力必須
	よる検索	値が"展開する"の時有効にな	
		ります。	
		"利用する":グループアドレ	
		スを展開する際にディレク	
		トリアシスタントを利用し	
		ます。Domino Directory にデ	
		ィレクトリアシスタントが	
		設定されている必要があり	
		ます。	
		"利用しない":グループアド	
		レスを展開する際にディレ	
		クトリアシスタントを利用	
		せずに Domino Directory を利	
		用します。	
7	Domino ジャーナルヘッダの削	"削除する":eml に出力する	入力必須
	除	際、Domino ジャーナルヘッ	
		ダを削除します。	
		"削除しない" : eml に出力す	
		る際、Domino ジャーナルへ	
		ッダを削除しません。	

環境設定画面(タブ:eml 出力関連)

保存する 🔀 キャンセル					
NotesToMailBase 一環境設定一					
「*」のついた項目は、入力必須項目です。					
ジャーナルDB関連 エラーチェッ	ク関連 メール変換制	]連 eml出力関連 ログ関	連		
見8月					
*メールのエンコード形式	°UTF-8▼				
プリフィクス	₽V900Dev_J				
*メールファイル出力先フォルダ	C:¥NTMB1¥Output _				
*システムテンポラリ (ファイルの一時保存場所)	<sup>©</sup> C≇NTMB1¥Temp_				
*スタイルシートファイルパス名	<sup>®</sup> C≆NTMB1¥Sty_	スタイルシートファイル名	StyleSheetUTF8.xsl		

	入力項目	処理内容	備考
1	メールのエ	"ISO-2022-JP":出力する eml ファイルを	入力必須
	ンコード形	IS0-2022-JP 形式でエンコードします。	
	式	″UTF-8″:出力する eml ファイルを UTF-8 形式	
		でエンコードします。	
2	プリフィク	出力する eml ファイル名の頭につける文字列を	
	ス	入力してください。	
3	メールファ	eml ファイルの出力先フォルダ名を入力してく	入力必須
	イル出力先	ださい。	
	フォルダ		
4	システムテ	eml ファイルの一時出力先フォルダ名を入力し	入力必須
	ンポラリ	てください。	
		ただし、メールファイル出力先フォルダ名とは	
		別のフォルダ名を入力してください。	
5	スタイルシ	スタイルシートファイルを保存したフォルダ	入力必須
	ートファイ	名を入力してください。	
	ルパス名	ただし、メールファイル出力先フォルダやシス	
		テムテンポラリとは別のフォルダ名を入力し	
		てください。	
6	スタイルシ	"メールのエンコード形式"の値により自動で	入力必須
	ートファイ	設定されます。	
	ル名		

※指定するフォルダはあらかじめ作成しておく必要があります。指定 されたフォルダが存在しない場合、処理が実行されません。

環境設定画面にエラーがある場合は、環境設定画面で指定したログ フォル及びコンソールにその旨メッセージが出力されます。

また、メールファイル出力先フォルダにはメール以外のファイルを 置かないで下さい。

環境設定画面 (タブ:ログ関連)

保存する 🔀 キャンセル					
NotesToMailBase 一環境設定一					
*「*」のついた項目は、入力必須項目で	र्च 。				
ジャーナルDB関連 エラーチェック関連 メール変換関連 eml出力関連 ログ関連					
影兒明					
ログ出力レベル	<ul> <li>✓ 通常メッセージ</li> <li>✓ エラーメッセージ</li> </ul>				
*ログ出力先	<ul> <li>✓ Notes DB</li> <li>✓ テキストファイル</li> </ul>				
*ログDBファイルパス名	NTMB¥MailBaseLog.nsf I				
*ログファイル出力先フォルダ	<sup>™</sup> C.¥NTMB1¥Log_				

	入力項目	処理内容	備考
1	ログ出力レベル	"通常メッセージ":変換ログ	
		(eml 出力)を出力します。	
		"エラーメッセージ":エラー	
		ログを出力します。	
2	ログ出力先	ログ出力先レベルの値が選択	入力必須
		されている時有効になりま	
		す。	
		"Notes DB":ログの出力先を	
		Notes DB にします。	
		"テキストファイル":ログの	
		出力先をテキストファイルに	
		します。	
3	ログ DB ファイルパス名	ログ出力先の値が"Notes DB"	入力必須
		の時有効になります。	
4	ログファイル出力先フォ	ログ出力先の値が"テキスト"	入力必須
	ルダ	の時有効になります。	

(3) ステータス画面

ステータス文書は、通常お客様が使用することはありません。 本文書は、NotesToMailBase で障害等が発生し、サーバダウンした際に、 その時の状態を記憶している文書です。

強制終了連続回数	0		
実行ステータスフラグ	9		
現在処理文書UNID			
退避件数	0		
退避文書UNID			
ダウン判定フラグ	,		

	入力項目	内容
1	強制終了回数	エージェントが、連続で強制終了した回数が、設定されま
		す。
		1回でもエージェントが正常に終了した場合、クリアされ
		ます。
2	実行ステータス	エージェントが起動されると"1"が設定され、エージェント
	フラグ	が正常に終了すると"9"が設定されます。
		サーバダウンやエージェントが強制終了すると、"1"の状態
		になります。
3	現在処理文書	エージェントが変換処理を行っている、メール文書 ID が
	UNID	都度格納されます。
		問題が発生した場合、本文書 ID のメールが原因になって
		いる可能性があります。
4	退避件数	エージェントが強制終了した時の、文書が格納された件数
		です。通常強制終了した直後は、"1"が設定されます。
		正常に終了した場合は、"0"が格納されます。
5	退避文書 UNID	エージェントが強制終了した時の、メール文書 UNID が格
		納されます。
		通常、本文書は、強制終了で仕掛のメール文書の為、次回
		のエージェント実行時に処理が行われクリアされます。
6	ダウン判定フラ	同一メール文書で2回エージェントが強制終了した場合、
	グ	本メールは3回目のエージェント実行時に、削除フラグが
		設定され、対象メールは変換から除外され次のメール変換
		が行われます。
		本フラグは内部で瞬間的に設定される為、通常ではクリア
		された状態で保存されています。

# 1-3-2. MailBaseLog.nsf

(1) メイン画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	01.日次	日次統計情報を表示します	
2	02.週次	週次統計情報を表示します	
3	03.月次	月次統計情報を表示します	
4	04.年次	年次統計情報を表示します	
5	11.環境設定	環境設定画面を開きます	
6	21.変換ログ	変換ログ画面を開きます	
7	22.処理順変換ログ	メール変換処理順の変換ログ	
		画面を開きます	
8	23.エラーログ	エラーログ画面を開きます	
9	91.バージョン情報	当 NotesDB のバージョン情報	
		を表示します	

# (2) 統計情報一覧画面

📲 閉じる 🚺 👪 古い統	計情報の削り	涂						
統計期間	正常文書 件数	正常文書サイズ (KB)	エラー文書 件数	エラー文書サイズ (KB)	暗号文書 件数	暗号文書サイズ (KB)	合計文書 件数	合計文書サイズ (KB)
2010/04/12	1	0.8	0	0.0	0	0.0	1	0.8
2010/04/13	0	0.0	0	0.0	1	2,187.9	1	2,187.9
2010/04/14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2010/04/15	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2010/04/16	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
▶ 2010/04/17	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2010/04/18	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/19	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/20	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/21	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/22	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/23	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/24	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/25	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/26	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
> 2010/04/27	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2010/04/28	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	1	0.8	0	0.0	1	2,187.9	2	2,188.7

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	古い統計情報の削除	古い統計情報の削除を行います	

# (3) 統計情報詳細画面

-1 閉じる				
	Notes To Ma	ilBase Log -	-統計情報-	
統計情報				
統計情報日付	2010/04/12	統計期間	16:00 ~ 17:0	00
	正常	エラー	暗号化	合計
処理併数	1	0	0	1
処理文書サイズ(byte)	782	0	0	782
メッセージID	青報 ] 703.0029DB1E-49257703.0029DF ] ]	31@LocaDomain>,		Notes To MaiPase Ver 5:00
			Cop	pyright(C) 2010. CyberSolutions Inc.

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	統計情報を閉じます	

# (4) 環境設定画面

~ ! `	
+	閉じる 🦉 環境設定文書の編集
¢	
	<b>暖街設定文書にの文書を編集してくたさい</b>

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	環境設定文書の編集	環境設定文書を編集モードで開きます	

# (5) 環境設定文書入力画面

	Notes To MailBase Log 一環境設定一		
*「*」のついた項目は、入力必須項	目です。		
統計情報関連	<u>1999</u>		
*統計情報出力	© する C しない		
*メッセージID出力 (日次統計情報)	©する Cしない		
*ログバックアップDBファイル名	MaiBaseLogA.nsf		
	Notes To MaiBase Ver 5.00 Copyright(C) 2010. CyberSolutions Inc.		

	ボタン名	処理内容	備考
1	保存する	環境設定文書を保存します	
2	キャンセルする	環境設定文書を保存せず、閉じます	
3	統計情報出力	統計情報の出力有無	単一選択
			9 つ しない
4	メッセージ ID 出力(日	日次統計情報へのメール文書メッセー	単一選択
	次統計情報)	ジIDの出力有無	する
			しない

#### 1-3-3. MailBaseLogA.nsf

(1) メイン画面



	ボタン名	処理内容	備考
1	01.変換ログ	変換ログ一覧を表示します	
2	11.環境設定	環境設定画面を開きます	
3	91 バージョン情報	当 NotesDB のバージョン情報を表示し	
		ます	

## (2) 変換ログ一覧画面

-	+1 開Uる					
	送受信日付	送受信時刻	ログ区分	メッセージID	文書ID	
	2010/04/12	16:37:28	正常	<ofe3dd8703.93a254b9-on49257703.0029db1e-49257703< p=""></ofe3dd8703.93a254b9-on49257703.0029db1e-49257703<>	8FA	
	2010/04/13	10:53:11	暗号化メール	<pre><ofb944dfcd.d76008a2-on49257704.000a28f0-4925770< pre=""></ofb944dfcd.d76008a2-on49257704.000a28f0-4925770<></pre>	902	

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	

(3) 変換ログ詳細画面

「開じる」					
	Notes To MailBase Log ーログ情報ー				
ログ情報					
変換目付	2010/04/13	変換時刻	10:56:10		
メール逆党信日付	2010/04/13	メール逆党信時刻	10:53:11		
処理結果区分	暗号化メール	メール文書サイズ	2,240,438		
メッセージロ	<ofb944dfcd.d76008a2-on49257704.000a2 8F0-49257704.000A59D8@LocalDomain&gt;</ofb944dfcd.d76008a2-on49257704.000a2 	文書ID	902		
ジャーナル文書へのリンク	<b>R</b>				
	÷				
			Notes To MailBase Ver 5. Copyright(C) 2010. CyberSolutions In		

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	ジャーナル文書の	暗号化メール文書を開きます	アクセス権がない
	リンク		メール文書は開き
			ません

### (4) 環境設定画面

+	開じる 🥂 環境設定文書の編集
	環境設定文書にの文書を編集してください)
1	

	ボタン名	処理内容	備考
1	閉じる	変換ログファイルを閉じます	
2	環境設定文書の編 集	環境設定文書を編集モードで開きます	

(5) 環境設定文書入力画面

🖕 保存する 🛛 🗙 キャンセル	
Not	es To MailBase Log Backup 一環境設定一
•「*」のついた項目は、入力必須項目です。 バックアップログ関連 128月	
*バックアップログ保存期限	₽15月』▼
	Notes To MailBase Ver 5 Copyright(C) 2010. CyberSolutions I

	ボタン名	処理内容	備考
1	保存する	環境設定文書を保存します	
2	キャンセルする	環境設定文書を保存せず、閉じます	

	ボタン名	処理内容	備考
3	バックアップログ 保存期限	バックアップログの保存期限を指定	単一選択 1ヶ月 3ヶ月

1-4. エラー発生時のログについて

1-4-1. ログ DB (log.nsf)への書出し

以下の場合、ログ DB (log.nsf) にメッセージを出力します。

- ・ 環境設定文書が存在しない場合
- ・ ログファイルの書出しに失敗した場合
- ログファイルの出力先が存在しない場合
- ・ スタイルシートのパス名が存在しない場合

1-4-2. ログファイルへの書出し

NotesToMailBase の環境設定文書の設定により、ログファイルにメッセ ージを出力します。

ログファイルは環境設定文書において指定した出力先に出力します。 テキストファイルを指定した場合、指定フォルダ下に実行日付のフォ ルダ(YYYMMDD)を作成され、その下に"エラー"、"暗号化"、" 正常"の3フォルダが作成され、処理実施日時をファイル名称として 出力します。(mnYYYYMMDDHHNN.txt)

- ・ ジャーナル DB に変換対象の文書が存在しない場合
- ・ ジャーナル DB から変換対象の文書を取得できなかった場合
- ・ ジャーナル DB の文書の変換時に失敗した場合
- ・ 暗号化メールを処理した場合
- ・ 正常処理を行った場合

変換処理に失敗した場合、変換処理に失敗した文書ごとに失敗の内容 を出力します。

変換に失敗したメール文書には、エラーフラグ: MailBaseErr フィール ドに「1」がセットされます。このエラーフラグにより、ジャーナル DBより変換に失敗した文書の検索が可能となります。

また、ジャーナル DB 内のエラーフォルダに移動されます。

変換処理に失敗したメール文書が Domino サーバーの強制終了の原因 となった場合、

NotesToMailBase にその文書 UNID が格納されます。

次にこのメール文書を変換した時、再度、Domino サーバーが強制終了 となったら、この次の

エージェント実行時にジャーナル DB 内の退避フォルダに移動されま す。その際に、該当する文書 UNID のメール文書を退避したというこ とをエラーログとして出力します。

暗号化メールの場合、暗号化メールのアーカイブ有無により変換を行い、変換されたメールはジャーナル DB 内の暗号化フォルダに移動または削除されます。

ジャーナル DB 内の暗号化メールを削除された場合は、変換ログにあるリンクをクリックするとエラーとなります。

### 1-5. 制限事項

- **1-5-1**. ジャーナル DB の設定について
- 「メール受信データベース」の設定において、「インターネットメールの格納形式」は「Notes リッチテキスト優先」と設定してください。また、「受信メールの暗号化」は「いいえ」と設定してください。

<ul> <li>(県存して閉じる ())認証の取得 (※キャンセル</li> </ul>	
メール受信データベース: Receive Journal	100
基本】その他 コメント 管理	
基本情報	ロケーション
メール受信データベース名:『Receive Journal』	ドメイン
[説明: 『』	サーバー:
インターネットアドレス: 『 』	ファイル名:
インターネットメール格納形『Notes リッチテキスト優先』	
受信メールの暗号化	

 ジャーナル DB の設定において、ジャーナリングの基本情報設定の 「方法」は「メール受信データベースへ送信」と設定してください。 「ローカルデータベースへコピー」と設定するとメールが暗号化され、変換ツールによる変換ができません。(「1-5-3.変換ツールにおける制限事項 暗号化されたメールについて」参照)

サーバー設定:r	skk347/RSKKGDEVR65		1151 (ST	010010	010101010	
基本 セキュリティ クライアン	ットのアップグレード   ルーター/SMTP   MIME   NO	TES INI 設定   IBM iNotes	IMAP SNMP Ac	tivity Logging   a	診断情報   Social Edition	管理
基本情報   拡張と制御   ;	メールの特記事項   トラッキング   メール回収   詳編	<b>8</b>				
ジャーナリング   コマンドと拡張	[] 制御					
基本情報						
ジャーナリング:	『有効』					
フィールド暗号化除外リスト	Form; From; Principal; PostedDate					
方法	『メール受信データベースへ送信』▼	-				
メールの宛先:	Receive Journal					
ジャーナルの受信者:	『有効』▼					
***確認: ジャーナルを行う(	には、ジャーナルのアクションが設定されたメールルール	が必要です。				

- ジャーナル DB のアクセス制御の設定について 変換ツールが設置されているサーバーを「管理者」として、設定し てください。
- ジャーナル DB のルール設定において、「全ての文書」をジャーナルするとしている場合は、ジャーナル DB にすべてのメールがジャーナルされます。

ルール設定において,条件によるジャーナル設定を行った場合,対象 となるメールのみがジャーナル DB にジャーナルされます。

なお、変換ツールにおいて、変換の対象となるのは、ジャーナル

DB にジャーナルされているメールのみになります。

(風)保存して閉じる (文)キャンセル	ルールの編集	×
	ルール: 💿 <u>海効</u> 🔿 無効	
サーバー設定 : rskk347/RSKKG	条件を指定 	
基本   ルーター/SMTP   MIME   NOTES.INI   Domi	作成 🖲 条件 🔿 例外	
基本 創限と制御 トラッキング 詳細	かつ 💌  送信者が 💌  次を含む時 💌	
211	次の条件に合うメールを受信した時: ロリトの時・	1000
制限   SMTP インバウンド   SMTP アウトバウンド   i		
◎新規ルール。 ②ルールの編集。 ●●ルー		
✓ 次の場合:全ての文書 ジャーナルする		9 ^ CHIPR
	アクションを指定	
	ジャーナルする	
	次のアクションを実行:	
	<u>ジャーナルする</u>	アクションの追加
		削除

 ジャーナル DB のプロパティで「一時的削除を許可」にチェックが ついている場合は 変換処理が完了したメール文書は完全削除されません。
 削除対象の文書は「ごみ箱」ビューに移動します。
 ※本変換ツールの使用により、ジャーナル DB の文書は削除されま すので、「Notes のジャーナル DB の機能」と「MailBase の機能」を 併用することはできません。

1-5-2. ジャーナル DB の「リッチテキスト優先」指定による制限事項

#### HTML メールについて

HTML メールはジャーナル DB に取り込まれた時点で、色情報がな くなる場合があります。

**1-5-3**. 変換ツールにおける制限事項

#### OLE オブジェクトについて

OLE オブジェクトが貼り付けられているメール文書を変換すると、 OLE オブジェクトは画像イメージとしてメールファイルに添付され ます。

#### 表について

メール文書において作成された以下の表は、「基本的な表」として表 示されます。

また、表の固定幅は正確には反映されません。

- タブ付きの表
- アニメーションの表
- タイトルバー付き表
- ・ プログラム可能な表

文字修飾について

メール文書において、以下の文字修飾は変換後のメールファイルに は反映されません。

- ・影付き
- ・ エンボス
- ・リスト

#### 呼び出しファイルについて

Notes の仕様により、以下のファイルは呼び出した場合、ファイルを 変換することができない場合があります。(画像イメージが表示され ません。)

• TIFF5.0

※ノーツクライアントから作成されるリソースイメージについては、 変換できません。

#### 暗号化されたメールについて

今回の変換のために使用するジャーナル DB は、変換対象のメール を取得することを目的としており、ジャーナル DB の機能であるメ ールの暗号化を行うと、メールの変換が不可能となります。

メールの暗号化には特定のユーザーのパブリックキーが用いられ、 メール変換を行うサーバーはこのパブリックキーを保持しておらず、 復号ができないためです。

また、メール送信の際に個人が暗号化したメール文書についても同様の理由により、復号ができないため、メール変換ができません。 暗号化されたメールは、ヘッダーと件名のみ変換されアーカイブされます。

#### 変換対象の文字コードについて

マルチバイト文字はエンコード形式を ISO-2022-JP と UTF-8 から選 択できるようになりました。デフォルトは ISO-2022-JP です。

#### アドレスのドメインについて

Notes アドレスでのメールの送受信が行なわれたメールの場合、送受 信者のアドレスに 変換ツールの存在する環境のドメインやサーバ ーのインターネットドメインが付加されます。

#### 伝言メモについて

Notes で作成可能な伝言メモメールのチェック項目の内容は変換後のメールファイルには反映されません。

#### 変換に失敗したジャーナル DB のメールについて

変換処理時に失敗したメールは、エラーフォルダへ移動されます。 変換に失敗したメールは エラーログが出力されますので、ログよ り確認できます。(「1.4.2 ログファイルへの書出し」参照) エラーフォルダの参照はジャーナル DB を Notes クライアントで開 き、[表示]→[移動]からエラーフォルダを選択することでエラーフ

オルダの中身を確認することもできます。

また、変換に失敗したメールにはエラーフラグを立てていますので、 ジャーナル DB より検索することも可能です。

ログより変換処理に失敗した内容をご確認の上、手動で削除するな どの対応をいただく必要があります。

なお、変換に失敗したメールは MailBase による検索の対象にはなりません。

#### DXLExporter operation failed エラーについて

Notes 側の制限により、データが存在するにもかかわらず API から のアクセス時にエラーとなって取得できないメールがあります。 この現象が発生した場合には以下のログメッセージが出力されます。

GetRichTextAsMimeStringWithDXL DXL exporter operation failed on line

また、メール自体はジャーナルにそのまま残存します。

#### 文字の行間について

文字の行間については、正しく反映されない場合があります。

#### 退避フォルダについて

- 変換処理時に Domino をクラッシュさせるようなメールは、2回クラ ッシュすると退避対象になり、3回目の変換時に、退避フォルダへ 移動されます。
- 退避したメールは、エラーログが出力されますので、ログより確認 できます。(「1.4.2 ログファイルへの書き出し」参照)
- 退避フォルダの参照はジャーナル DB を Notes クライアントで開き、 [表示]→[移動]から退避フォルダを選択することで退避フォルダの 中身を確認することもできます。
- また、変換に失敗したメールにはエラーフラグを立てていますので、 ジャーナル DB より検索することも可能です。
- ログより退避したメールをご確認の上、手動で削除するなどの対応 をいただく必要があります。なお、退避したメールは MailBase によ る検索の対象にはなりません。
- 1-5-4. その他の制限事項

#### インターネットアドレス自動変換について

送信時にインターネットアドレスが取得できなく、ノーツ ID で登録 されている場合、NotesToMailBase が動作する環境のアドレス帳にそ のノーツ ID が登録されていてもインターネットアドレスが記述さ れていない、またはノーツ ID 自体の登録がないときは Notes/Domino

のインターネットアドレス自動変換機能によって、インターネット アドレスが自動的に決定されます。 自動変換機能のルールは下記の通りです。

@の前部分

(ユーザーID)% (NotesToMailBase が動作している Domino サーバーのドメイン名)

@の後ろ部分

(NotesToMailBase が動作している Domino サーバーのインターネットドメイン名)

例:ユーザーID TARO YAMADA/Dev/CS

NotesToMailBase が動作している Domino サーバーのドメイン名: NTMB

NotesToMailbase が動作している Domino サーバーのインターネットドメ イン名: cybersolutions.co.jp

自動変換アドレス

TARO YAMADA/Dev/CS%NTMB@cybersolutions.co.jp

#### インターネットアドレスを持たないユーザーについて

インターネットアドレスを持たないユーザーは MailBase にログイン が不可となります。そのユーザーに対する検索権限を持つユーザー にてログインし件名・内容等で検索を行う事のみ可能となります。

#### グローバルドメイン文書を設定している場合

「グローバルドメイン」を設定している際に、インターネットアド レス検索を無効にしているとノーツ間のメール時に FROM アドレ スがノーツ ID のままとなってしまう事象が弊社サポートにて確認 されております。(デフォルト無効) グローバルドメインをご利用の際には、インターネットアドレス検 索を有効にして頂けますようお願いします。

#### 対応していないメールタイプについて

- ・ 開封通知返信要求メール
- ・ 重要フラグ付
- 委譲メール

#### 添付ファイルの変換について

添付ファイルの Notes 文書のプロパティの情報とメールのページソー ス内の情報に下記のような不整合がある MIME メールの場合、正しく 変換されないことがあります。

例:

メールのページソース: Content-Transfer-Encoding: quoted-printable Notes 文書のプロパティ: Content-Transfer-Encoding: 8bit

# Notes スクリプトの Send メソッドで自動送信されたメールの変換について

Notes スクリプトの Send メソッドで自動送信されたメールを eml 形式 に変換した場合、メールの左側が切れて表示される場合があります。 このような場合、プログラムで送信するメールを作成する際に本文の 各行の先頭に" "(全角スペース)を何文字か挿入するとその分が 右に寄るため、メーラで参照した時の表示が改善される事を確認して おります。

#### 1-6. アップグレード手順について

(1) 事前準備

アップグレード作業にあたり、事前の準備を行います。

- A) 「1-2.導入手順 (1)NotesToMailBase.nsf をサーバーに設置」を参照し、最新版のテンプレートファイル (NotesToMailBase.ntf) に署名します。
- B) 必要に応じ、NotesToMailBase.nsf ファイルおよび転送エージェント(mbtransc.exe)のバックアップを取得します。
- C) 「1-2.導入手順 (2) 変換ログファイルおよび変換ログバック アップファイルのサーバーへの設置」を参照し、変換ログファ イル

(MailBaseLog.ntf) および変換ログバックアップファイル (MailBaseLogA.ntf) をあらかじめ作成し、設定します。

### (2) <u>システム停止</u> アップグレード作業にあたり、メール変換/転送を停止します。

- A) 「convert」エージェントの無効化
- Lotus Domino Designer を開きます
- ・ エージェント一覧より「convert」エージェントを選択します
- ・ 無効ボタンを押し、エージェントの実行を停止します
- B) 転送エージェントの停止
- ・ Windows のコントロールパネルからタスクを開きます
- ・ 転送エージェントタスクのプロパティ画面を開きます
- タスクタブにある「実行する」のチェックをはずします
- (3) <u>アップグレード作業</u> アップグレード作業を行います。
  - A) NotesToMailBase.nsf の設計置換
  - Domino Administrator を開きます
  - メニューより「ファイル」→「データベース」→「設計の置換」
     を選択します
  - データベース設計の置換画面で、署名したテンプレートファイルを選択し、置換ボタンを押します

データベース設計の置換: NTMBtest.nsf / 1192/119	2 🛛 🛛 🗙
テンプレートサーバー(S)  Local	置換( <u>R</u> )
<ul> <li>NotesToMailBase</li> <li>NotesToMailBase</li> <li>NotesToMailBase</li> <li>NotesToMailBase</li> <li>DB ライブラリ (7)</li> </ul>	キャンセル
テンプレートについて(A) ド細テンプレートの表示(M) テンプレートを引き組いで設計の に 式と LotusScript を非表示(E)	ntf

・以下の確認画面で「はい(Y)」を押します。

IBM Dom	ino Administrator 🔀
2	データベースの設計を指定したテンプレートのビュー、フォーム、エージェント、フィールドと置き換えます。実行しますか?
	<u>(ばい(2))</u> いいえ(N)

※MailBaseLog.ntf も上記の手順でアップグレード作業を実施します。
※MailBaseLogA.ntf も上記の手順でアップグレード作業を実施します。

- B) 転送エージェントのコピー
- 転送エージェントのコピーを行います。
- C) 環境設定文書の修正
- ・「1-3-1. NotesToMailBase (2)環境設定文書入力画面」を参照し、 環境設定文書を見直して適宜修正します。
- D) スタイルシートのコピー
- ・ 新しい StyleSheet.xsl、StyleSheetUTF8.xsl をコピーします。

#### (4) システム開始

システムを開始するため、メール変換/転送を開始します。

- A) 転送エージェントの開始
- ・ Windows のコントロールパネルからタスクを開きます。
- ・ 転送エージェントタスクのプロパティ画面を開きます。
- ・ タスクタブにある「実行する」にチェックします。
- B) 「convert」エージェントの有効化
- ・ Lotus Domino Designer を開きます。
- ・ エージェント一覧より「convert」エージェントを選択します。
- ・ 有効ボタンを押し、エージェントの実行を開始します。

# 2. メール転送設定

#### 2-1. 転送エージェントの設定

 (1) 転送エージェントのインストール
 転送エージェント(mbtransc.exe)をジャーナルサーバの任意のフォ ルダにコピーします。

mbtransc.exe 32 ビット OS 用 mbtransc64.exe 64 ビット OS 用

転送エージェントは引数により下記の項目を設定する必要がありま す。

- ・MailBase サーバーの IP もしくはドメイン名
- ・ポート番号
   通常は5555、マルチサーバー構成で転送受信サーバーへ転送 する場合は5577を指定します。
- ・転送したいメールのあるフォルダのパス
- ・タイムアウト値 (1~1800 単位:秒)
- ・ログファイルのパス
- ・暗号化通信オプション
  - 暗号化通信によるメール転送を行う場合に設定します。
    - -c:暗号化通信によるメール転送を行います。
    - -C:暗号化通信によるメール転送を行い、転送先が暗号化通信 に対応していない場合、非暗号化通信へ自動的に切り替えて メールを転送します。
  - ※オプションの指定をしない場合は、非暗号化通信によるメール 転送を行います。
  - ※暗号化通信によるメール転送を行う場合、MailBase が MailBaseV5SP3の hotfix\_mbv5sp3\_180507.tzg 適用以降で、且つ 転送受信モジュールの暗号化設定が有効となっている必要が

あります。

・転送プロセスの起動数(1~256)

転送プロセス数を複数指定する場合は MailBase の以下の設定 ファイルの child、lisener をあわせて設定します。

/webmail/mbase/etc/mbtransd.conf (ポート 5555 を使用する場合) /webmail/mbase/etc/archive/cluster/mbtransd.conf (ポート 5577 を使用 する場合)

child を増やすと mbtransd のプロセスが設定値数起動しプロセスが 起動している数だけの対応が可能です。また、lisener 値を増やすと、 mbtransd プロセスが接続する先の値が増えるのでこの数だけの 受信対応が可能になります。

※MailBase で受信できる最大のファイルサイズはデフォルトで 100MBです。メールサイズを変更する場合は、MailBase の /webmail/mbase/etc/mbtransd.conf の maxfilesize の値を変更して、 mbtnrasd を再起動します。

※設定を変更した後は MailBase サーバ側で mbtransd を再起動して ください。(MailBase サーバの作業)

MailBase サーバ上で以下のコマンドを実行して mbtransd を再起動します。

webmail 権限で下記のコマンドを実行します。

\$ /webmail/mbase/bin/mbase.pl mbtransd restart

\$ /webmail/mbase/bin/mbase.pl mbtransd\_cluster restart

※タスクスケジュールに設定する際の詳細については次項「2-2. スケジュール設定」を参照して下さい。

- 2-2. スケジュール設定
- 2-2-1. Windows 2008・2012 における設定方法
- (1) 必要なサービスの状況確認・変更

[コントロールパネル]の[管理ツール]から[タスクのスケジュ ール]を開きます。

一覧で Task Scheduler が準備完了になっているか確認します。

無効になっている場合は、タスクを右クリックし有効を選択します。

🕑 ቃአን አንኝኋーラ	
ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)	
④ タスク スケジューラ (ローカル) 「名前   状態   トリガー   次回の実行時刻   前回の実行時刻   前回の実行時刻   前回の実行時刻   前回の実行	操作
□ 10 なり スケジューラ ライブラリ ● mbtran	タスク スケジューラ ライブラリ 🔺
	💿 基本タスクの作成
フロパティ(P) 肖塚余(D)	🍖 タスクの作成
	タスクのインポート
	📑 実行中のすべてのタスクの
	👔 すべてのタスク履歴を無効
	🛀 新しいフォルダー
	表示 🕨
全般 トリガー 操作  条件  設定  履歴	- 最新の情報に更新
名前: mbtransc	- 👔 ヘルプ
场所: ¥	選択した項目 🔺
作成者: ADTEST0¥Administrator	🛖 有効化
	エクスポート
	⑦ プロパティ
	🗙 削除
	2 ヘルプ
「セキュリティ オフジョン」 タスカの電行時に使うユーザー アカウント:	
ADTEST0¥Administrator	
○ ユーサーが口クオンしているときのみ実行する ○ ユーザーが口グオンしているかどうかにかかわらず実行する	
「 パスワードを保存しない。タスクがアクセスできるのはローカル リソースのみ	
	1

(2) タスクの登録

[コントロールパネル]の[管理ツール]から[タスクのスケジュ ール]を開きます。「基本タスクの作成」を選択し、ウィザードの 指示に従い mbtransc.exe のスケジュールを設定します。 (3) タスクの繰り返し実行間隔の変更

1. [コントロールパネル] の「タスク」から(2)で登録した mbtransc のタスクのプロパティを開きます。

እስከ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ በ	_ @ ×
ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)	
の     スク     スク     スケジューラ     (ローカル)     名前     「状態     ドリガー     次回の実行時刻     前回の実行時刻     前回の実行時刻     前回の実行時刻     前回の実行時刻     「     前回の実行時刻     」     前回の実行時刻     「     市     」     市     二	操作
■ 6 ダメダ メケジューフ ライブラリ ● mbtransc 準備完了 た日 10.00 (*115) 実行する(R)	タスク スケジューラ ライブラリ 🔺
総了(E) 毎55m	◎ 基本タスクの作成
エクスポート(公…	🕭 タスクの作成
プロパティ(P) 判断金(D)	タスクのインボート
U.Maderov	■ 実行中のすべてのタスクの…
	■ すべてのタスク履歴を無効…
	🎽 新しいフォルダー
	表示 ▶
	る 最新の情報に更新
	ハルブ
Hans. ¥	選択した項目 🔺
クカアル・ 作成者: ADTEST0¥Administrator	▶ 実行
ixon;	<ul> <li>終了</li> </ul>
	- ● 無効化
	エクスポート
	④ プロパティ
	₩ 削除
セキュリティオプション タスクの実行時に(使うニーザーアガウント: ADTESTIVEAdministrator © ユーザーがログメンしていると参のみ実行する ○ ユーザーがログメンしているかどうかにかかわらず実行する □ パスワードをは保てしない。タスクがアクセスできるのはローカルリソースのみ □ 最上位の特権で実行する	
	,

2. 「タスク」タブの「実行するファイル名(R):」欄を、下記の例を 参照して環境に合わせて設定します。

例)

◆64 ビットモジュールの場合

C:¥mbase¥mbtransc64.exe 192.168.1.xxx 5555 E:¥mbase¥mail 60 1 -C C:¥mbase¥mbtransc.log

◆32 ビットモジュールの場合

C:¥mbase¥mbtransc.exe 192.168.1.xxx 5555 E:¥mbase¥mail 60 1 -C C:¥mbase¥mbtransc.log

上記の例は、以下の意味となります。

- ・mbtransc.exe のパス -> C:¥mbase¥mbtransc.exe
- ・MailBase サーバーの IP -> 192.168.1.xxx
- ・ポート番号 -> 5555
- ・転送したいメールのあるフォルダのパス -> c:¥mbase¥mail

- ・60 -> タイムアウト値 (1~1800 単位:秒)
- ・1 -> 転送プロセスの起動数(1~256)
- ・-C:暗号化通信によるメール転送を行う場合に指定
- \*マルチサーバー構成で転送受信サーバへ転送する場合はポート番号を"5577"に指定して下さい。
- \*暗号化通信によるメール転送を行う場合は以下のオプションを 指定します。
  - -c:暗号化通信によるメール転送を行います。
  - 例) C:¥mbase¥mbtransc.exe 192.168.1.xxx 5555 c:¥mbase¥mail 60 -c
  - -C:暗号化通信によるメール転送を行い、転送先が暗号化通信に 対応していない場合、非暗号化通信へ自動的に切り替えて メールを転送します。
  - 例) C:¥mbase¥mbtransc.exe 192.168.1.xxx 5555 c:¥mbase¥mail 60 -C

オプションの指定をしない場合は、非暗号化通信によるメール転 送を行います。

暗号化通信によるメール転送を行う場合、MailBase が MailBaseV5SP3のhotfix\_mbv5sp3\_180507.tzg 適用以降で、且つ 転送受信モジュールの暗号化設定が有効となっている必要があり ます。

\*デバッグログを出力する場合、ログファイルのパスとして

「c:¥mbase¥mbtransc.log」のようにフルパスでログファイルを引数に 指定して下さい。

3. 「全般」タブの「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわ らず実行する」を選択します。

「パスワードを保存しない」を選択した場合、サーバー再起動時に 実行できない可能性があります。

🕒 mbtransc のプロ	パティ (ローカル コンピューター)		x	
全般   りガー   捜	昨   条件   設定   履歴			
名前( <u>M</u> ):	mbtransc			
場所:	¥			
作成者:	ADTEST0¥Administrator			
説明( <u>D</u> ):				
□ セキュリティ オプショ	, シーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー			
タスクの実行時に	使うユーザー アカウント:			
ADTEST0¥Admi	nistrator	ユーザーまたはグループの変更(山)		
○ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)				
○ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)				
パスワードを保存しない(P)タスクがアクセスできるのはローカルコンピューターリソースのみ				
□ 最上位の特権	で実行する(1)			
□ 表示しない( <u>E</u> )	構成( <u>C</u> ): Windows Vista™, Windows Vista™, Windows Vista™, Windows Vista	dows Server™ 2008 🖉 💌	1	
		OK キャンセル		

4. 「トリガー」タブの [編集] をクリックします。

🕒 mbtransc のプロパティ	(ローカル コンピューター)		X
全般 トリガー 操作	条件 設定 履歴		
タスクの作成時に、タスクの	)トリガー条件を指定できます。		
トリガー			<u>1</u>
毎日	毎日 16:30 に起動		4
•			
新規( <u>N</u> ) 編集(E	) 削除( <u>D</u> )		
		ОК	キャンセル

5. タスクを繰り返し実行のチェックボックスをチェックし、間隔 を設定します。継続時間を無期限に設定します。

トリガーの編集 🛛 🔀 🔀 🗶
タスクの開始(G): スケジュールに従う
<ul> <li>○ 1 回(N)</li> <li>□ ○ 毎日(D)</li> <li>□ ○ 毎月(M)</li> <li>□ ○ 毎月(M)</li> <li>□ ○ 毎月(M)</li> <li>□ □ ○ □ □ ○ □ □ ○ □ □ ○ □ □ ○ □ □ ○ □ □ ○ □</li></ul>
□ 遅延時間を指定する (ランダム)(近): 1時間 👤
✓ 繰り返し間隔(P): 5分間 ★ 総続時間(F): 無期限
■ 繰り返し継続時間の最後に実行中のすべてのタスクを停止する①
□ 停止するまでの時間(L): 3日間 👤
有効期限(2): 2016/05/21      18:15:31
☑ 有効(B)
OK キャンセル

繰り返し実行間隔はご使用の環境に合わせて設定して下さい。 ジャーナルサーバからメールデータが出力される間隔は最短5分 ですので、タスクの繰り返し実行の間隔は最短5分に設定するこ とをお勧めします。

6. 「設定」タブの[タスクが既に実行中の場合に適用される規則] において、「既存のインスタンスの停止」を設定してください。

🤒 mbtransc のプロパティ (ローカル コンピューター)	X
全般   トリガー   操作   条件   設定   履歴	
タスクの動作に影響する追加設定を指定してください。	
✓ タスクを要求時に実行する(L)	
□ スケジュールされた時刻にタスクを開始できなかった場合、すぐにタスクを実行する(S)	
□ タスクが失敗した場合の再起動の間隔(①: 1分間 👤	
再起動試行の最大数(R): 3 回	
✓ タスクを停止するまでの時間( <u>K</u> ): 3日間 ▼	
✓ 要求時に実行中のタスクが終了しない場合、タスクを強制的に停止する(E):	
□ タスクの再実行がスケジュールされていない場合に削除されるまでの時間(D): 30 日間 ▼	
タスクが既に実行中の場合に適用される規則(12):	
既存のインスタンスの停止	

6.

# 3. 認証設定

Notes をご利用の場合、POP3 認証または LDAP 認証によりユーザー認 証を行うことができます。推奨する認証方式は、Domino の LDAP 認証 です。

#### 3-1. POP3 認証

認証方式の設定方法につきましては

・「MailBase マニュアル【導入設定・システム管理】4-6-3.認証方式
 設定」を参照下さい。

# 3-2. LDAP 認証

#### **3-2-1**. Domino の設定

Domino の LDAP を使用する場合、以下の項目について確認して下さい。

- ・ LDAP サービスが有効になっていること
- データベースとテンプレートへの匿名アクセスが許可されている こと
- ・ バインドの DN 要求=> "はい"に設定されていること
- ユーザーのインターネットメールアドレスが設定されていること
- ユーザーのインターネットパスワードが設定されていること

#### 3-2-2. LDAP 認証

認証方式の設定方法につきましては

・「MailBase マニュアル【導入設定・システム管理】4-6-3.認証方式
 設定」を参照下さい。

# MailBase $\forall = \exists \mathcal{T} \mathcal{V}_N$ otesOption

発行年月日	平成 28 年 02 月 15 日 第 4 版
	平成 28 年 12 月 13 日 第 5 版
	平成 29 年 07 月 31 日 第 6 版
	平成 30 年 11 月 22 日 第 7 版
	平成 31 年 12 月 27 日 第 8 版
	令和元年9月24日 第9版
編集・著作	サイバーソリューションズ株式会社
	東京都港区三田 3-13-16 三田 43MT ビル

https://www.cybersolutions.co.jp/

本マニュアルの無断複製・配布・改変を禁じます。本書に記載される 情報は予告なく変更されることがあります。

Copyright © 2019 Cyber Solutions, Inc. All rights reserved.